

# コロナ対策のまとめ

(R3.12.2 現在)

## 1 感染症対策

- 感染者動向  
世界 2.6 億人 (死亡 522 万人)  
米国 4,800 万人 (死亡 78 万人)  
英国 1,033 万人 (死亡 14 万人)  
独国 595 万人 (死亡 10 万人)

- 日本 173 万人 (死亡 18,377 人)  
NZ 1.2 万人 (死亡 44 人)  
台湾 1.6 万人 (死亡 848 人)  
中国 9.5 万人 (死亡 4,636 人)

福岡市の累計数 (市 34,395 人)※県 74,608 人 東京都 38 万人 大阪府 20 万人  
第3波(R2.12~2) 累計 5,891 人 第4派(R3.4~6) 累計 7,408 人 第5派(R3.7~9) 累計 7,282 人  
(県) 病院ベッド確保 1,482 床 パルスオキシメーター 20,617 台 (全国 69 万台)

- PCR 検査数1日あたり最大検査数 県 8,546 人分可能 (直近平均 709 件 / 日)※1.5 万件 (民間含む場合)  
○ワクチン接種率 (R3.11.19) 対象者数 福岡市 139 万人 (高齢者 34.3 万人)  
・1回目 119 万人 = 85% (高齢者 32.6 万人 = 95.2%) 2回目 116 万人 = 83.5% (高齢者 32.4 万人 = 94.8%)  
・接種会場 約 850 病院、展示場、中洲、各区、夜間市民病院、訪問 ※現在は中央体育館、KITTE 博多で開催  
○その他の対策・治療薬 (中和抗体 国 50 万回分、経口薬 国 60 万回分)・看護師確保 (県 429 人)  
・ワクチン (3回目 12 月 ~ 国産の早期開発)・酸素ステーション (県 34 床)※最大 150 床見込み

## 2 市民への要請 (一部抜粋) 8/2~10/14

	まん延防止等重点措置	緊急事態措置	福岡コロナ警報
	8/2~8/19	8/20~9/30	10/1~10/14
飲食店	5~20 時 少人数短時間 酒 × カラオケ設備自粛	5~20 時 少人数短時間 酒 × カラオケ ×	(感染症防止認証店) 5~21 時 原則 4 人以内 酒〇 カラオケ設備自粛 (感染症防止認証店以外) 5~20 時 原則 4 人以内 酒〇 カラオケ設備自粛
イベント	(大声なし) ~21 時 定員 100% 以内 上限 5 千人 }*1	~21 時 定員 50% かつ 上限 5 千人	(大声なし) 定員 100% 以内 5 千人又は 50% (≤1 万) }*2
	(大声あり) ~21 時 定員 50% 以内 上限 5 千人 }*1		(大声あり) 定員 50% 以内 5 千人又は 50% (≤1 万) }*2

\*1…収容率と人数の上限でどちらか小さい方

\*2…いずれか大きい方

## 3 経済対策

- 国の支援 合計 55.7 兆円 (事業規模 78.9 兆円、GDP 下支え 5.6%)※コロナ予備費残 2.6 兆円  
・持続化給付金 雇用調整助成金 事業復活交付金 時短要請協力金可(県)  
・イベントキャンセル料支援補助金  
・無利子無担保枠の拡充・劣後ローン(公庫)  
・ワクチンパスポート(12月中に活用) 無料 PCR・抗原定性 GOTO 地域観光支援  
・DX の推進(健康・医療・介護・教育)マイナンバーに健康保険証…デジタル田園都市国家構想  
・医療・看護・保育の収入引き上げ こども 10 万円給付(福岡市は中学生までは 12 月 24 日に 10 万円支給済)

### ○福岡市の独自支援 (地方創生臨時交付金等)

- ・R2.6~家賃補助 43 億 (予備費 100 億円流用後、国からの補填)  
・R2.1~売上減少事業者支援 5.2 億  
・R3.2~感染症シティ促進事業 13 億円

※今後の福岡市の感染症への対応・病院審議会による市民病院の在り方、組織の在り方

# 謹賀新年

皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。地域の行事等を含め、なかなか皆様にお会いできず本当に残念ですが、日々政務に励む中で福岡市が少しづつ元気を取り戻しつつあることを感じています。令和3年は、生活環境委員会、大都市財政制度確立推進協議会、少子・高齢化対策特別委員会、議会改革調査特別委員会、決算特別委員会に所属し活動して参りました。第4回定例会では一般質問に立ちましたので、その課題につきまして、福岡市の現状と取組み等についてご報告いたします。皆様のご支援に支えられ、昨年6月に在職10年の表彰を賜りました。あらためて、初当選させて頂いてからの日々を振り返り「初心忘るべからず」の座右の銘を心に刻みました。これからも皆様のご期待に応えることができますよう、なお一層市政に邁進して参ります。長年にわたるご支援に感謝申し上げますとともに、皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



福岡市議会議員 大森 一馬

## 新年のご挨拶ならびに

### 「令和4年 大森一馬 新春市政報告会」中止のお知らせ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。新春を迎え、まず皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。新型コロナウイルス感染症のいくつもの波を乗り越えながら、それでもまだ警戒を緩めることができない状況が続いています。大森一馬議員は地域の代表としての思いを胸に、コロナ対策支援はもちろんのこと、さまざまな市の課題に取り組んでおります。地域の皆様と顔を合わせる機会も激減して久しく、2月の上旬に予定しておりました「大森一馬 新春市政報告会」は今年こそぜひ開催したいと模索いたしましたが、先の読めない新型コロナウイルス感染症に係る予防対策の為、皆様の健康と安全への懸念を最優先とし、残念ながら中止の決定をいたしました。代えまして、活動の一端ではございますが「大森一馬 活動レポート」をお届けいたしますので、目を通しいただければ幸いです。今後とも大森一馬議員の活動を見守り、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

大森一馬後援会会長 金堀 雄二



福岡市の元気! 早良区の元気!!  
みんなの元気   
**大森一馬**

おお もり かず ま  
**大森一馬**

※今後の福岡市の感染症への対応・病院審議会による市民病院の在り方、組織の在り方

速

## 福岡市中央卸売市場食肉市場について

食肉市場は10都市に10市場しかなく、九州では唯一福岡市だけに開場しています。令和2年度の取扱高は2万4,000トン、取扱金額は264億6,000万円で、東京都に次ぐ全国第2位の取扱金額です。現在の東区東浜に移転した平成12年度から令和2年度の20年余りで、取扱量は約50%増・取扱金額は約2倍と大きく伸びています。施設の更新時期を迎えるとともに施設の処理能力に不足をきたし、生産者の出荷を断らなければならない状況が生じる可能性も危惧されます。また、現在福岡市食肉市場からの輸出先は、マカオ・香港・タイ・ベトナムで、アメリカ及びヨーロッパ諸国が設定した輸出基準は満たしていません。国が後押ししている輸出促進に向けた施設整備も視野に入れる時期が来ていると考えます。これらをふまえ、今後も市民の食生活に欠かすことのできない安全、安心な食肉を安定的に供給し続ける重要な都市施設として、生産者から選ばれ、多様化する消費者ニーズに対応できる食肉流通拠点の核として、発展し続けてほしいと要望しました。



## 脱炭素について

直近の福岡市域の二酸化炭素排出量は2019年度が569万7,000トンと推計しており、部門別では、自動車部門約32%、業務部門約28%、家庭部門約24%です。1番目は自動車部門とのことで、重点的に取り組む分野だと思います。車両について見てみると、福岡市域における保有台数ベースでの自動車車種別構成割合は、乗用車84.0%、貨物車等15.6%、バスが0.4%で、二酸化炭素排出量から見た車種別構成割合は、乗用車50.0%、貨物車等48.8%、バス1.2%です。脱炭素社会に到達するためには、自家用車だけでなく、公共交通、貨物車両、業務用車両までが電動車に移行しなくてはいけません。しかし多くの市民にとっては、電気自動車や燃料電池自動車はまだ自分たちが使うイメージを持てないと思いますし、事業者も、今後環境対策が求められるようになると感じる一方で、業務用の車両をどう次世代自動車に移行させていくのか、将来への漠然とした不安もあります。福岡市では令和3年度は、車両購入や充電設備設置に対する補助枠を前年度と比べ2倍以上に拡大し、車両購入補助の対象に燃料電池自動車を追加しました。今後さらに市民や事業者の皆様に、次世代自動車の高い環境性能と合わせて非常用電源としての活用のメリットについても広報、啓発を行うとともに、国の計画や今後進むと見込まれる関連技術や製品の動向を踏まえながら、車両導入に当たっての支援や充電インフラの拡充などの環境整備に取り組んでいきます。

速

## 無電柱化の推進

令和元年度の房総半島台風では、記録的な防風雨により約2,000本の電柱が損壊し、大規模かつ長期間にわたる停電や通信障害、道路遮断が発生し、市民生活やその後の復旧活動に大きな影響を及ぼしました。災害時の電柱倒壊による道路遮断の防止や電力、通信網の切断被害の軽減を図るために無電柱化は、市民生活に密着する物流やライフラインを維持していく上で、その必要性がますます高まっていると感じます。無電柱化には、コストが高い、事業者との調整が困難、事業期間が長いなどの困難がありますが、福岡市では共通の課題認識を持つ電線管理者の協力を得て、R2年11月に福岡市と電線管理者の若手職員で構成したプロジェクトチームを立ち上げました。プロジェクトチームからは、「ファスト地中化」<sup>\*1</sup>や「工事ヤード常設化」<sup>\*2</sup>といった案が出されました。令和3年度から令和7年度までの5か年を計画期間とする次期無電柱化推進計画を今年度中に策定予定です。次期計画の作成にあたっては、道路整備に合わせて無電柱化を行うことを提案しました。短期的にはコストが集中するかもしれません、長い目で見ればコストやスピードの面で効果的だと思います。さらに、いつまでに何%目指すといった目標や、その目標に対してどの程度進んでいるのか、市民にとって分かりやすい指標の設定を要望しました。

<sup>\*1 「ファスト地中化」</sup>道路縦方向の高圧線などを地中化し、各戸への民地引き込み線はとりあえずそのまま上空に残すという手法です。民地引き込み線の地中化は、各戸ごとに交渉調整を行う必要があります。時間もコストもかかります。上空に残った引込線は、地中化する代わりに、照明柱などを活用し、固定します。これによって、地中化に伴う時間とコストをカットし、コストと効果を最適化することができます。景観的にも工事前よりかなりスッキリします。

<sup>\*2 「工事ヤード常設化」</sup>埋設工事の期間中、資機材を現場に置いたままにできるスペースを確保し工事の効率化を図る手法です。1日当たりの作業効率は倍程度に向上すると試算しています。常設化の導入にあたっては、交通になるべく影響を与せず、車や歩行者が安全かつスムーズに通行できるよう、交通誘導員の配置を強化したり、常設化する際にはバリケードのようなしっかりしたもので囲うなどの安全対策を強化します。



お願い

ご家族構成等にご変更がありましたら、大変お手数ですが、下記までお知らせ頂けますと幸いです。

**TEL (092)821-2075 FAX (092)822-8125**

連絡先 大森一馬後援会事務所 〒814-0022 福岡市早良区原1丁目2-25

